

「地域若者サポートステーション」事業の今後のあり方に関する検討会資料

吉田構成員提出資料

平成24年10月4日

外部機関と連携した総合的キャリア支援

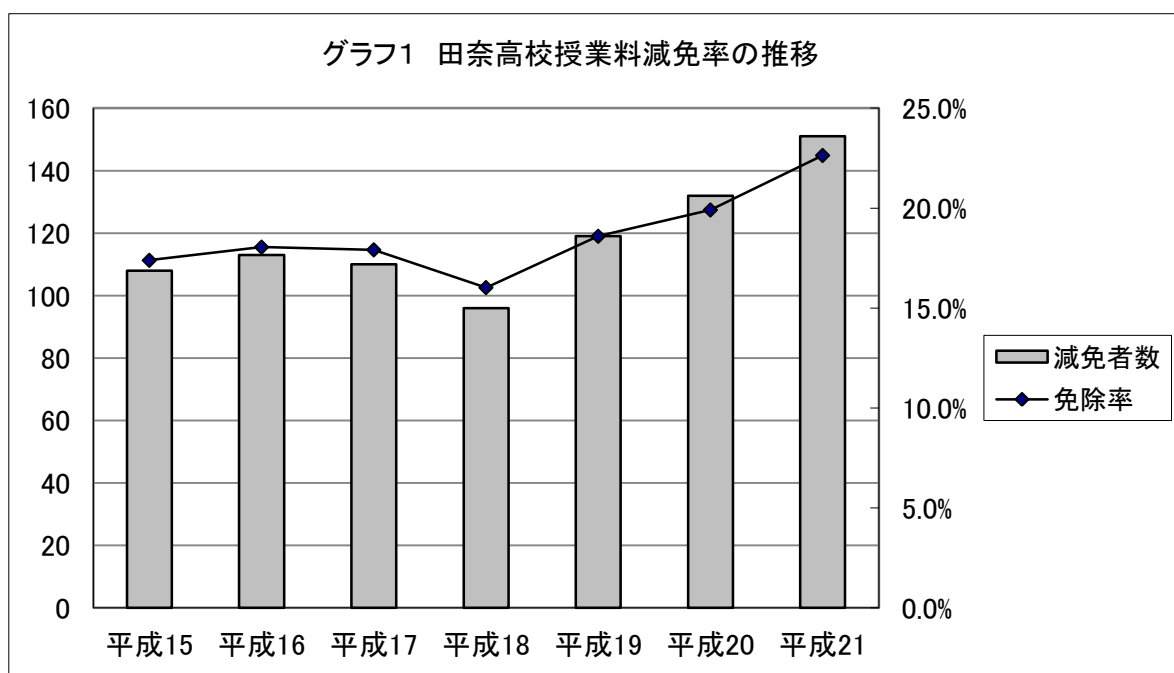
～神奈川県立田奈高等学校の取組～

神奈川県立田奈高等学校教諭
吉田美穂

1. 学校紹介

(1) 学校概要

- 横浜市北部の住宅地に位置する創立33年の全日制普通科高校。
- 平成21年度より県教育委員会によりクリエイティブスクールに指定。
 - ・これまで持てる力を必ずしも十分に発揮しきれなかった生徒を積極的に受け入れ、主体的に学び考え行動する「社会実践力」を育成することを目的とした普通科高校。
 - ・入学者選抜において学力検査を行わず、面接および自己表現活動の結果と調査書の評定以外の部分を資料として総合的な選考を行う。
- 学習面や生活面に課題を抱えた生徒が多く入学。
- 背景には、厳しい経済状況や家庭環境が存在している。
- 約7割の生徒がアルバイトに従事。



田奈高校作成

(2) 教育実践の特徴

○「かながわの支援教育」の実践

- ・障害のあるなしに関わらず、自分の力だけでは解決できない課題に直面しているすべての子どもを対象として、その課題を「教育的ニーズ」としてとらえ、支援していこうとする教育

○30人以下の学習集団

- ・クラスは30人学級
- ・1, 2年生の英・数は、さらにクラスを2分割したレッスン・クラス

○「個別支援・早期支援・段階的支援」の学習支援

- ・1年生の田奈ゼミなど、補習授業
- ・大学と連携した学習支援ボランティア

○対話を重視した生徒指導

- ・「だめじゃないか」ではなく、「どうしたの？」から始まる対話

○教育相談コーディネーターを中心とした教育相談

- ・「気になる生徒」を職員の日常的な指導や対話の中から見出し、支えるしくみ
- ・教育相談コーディネーター・養護教諭・スクールカウンセラー・生徒指導担当・担任などによるケース会議
- ・必要に応じた外部連携（児童相談所／医療機関／福祉窓口など）

○地域と連携したキャリア教育

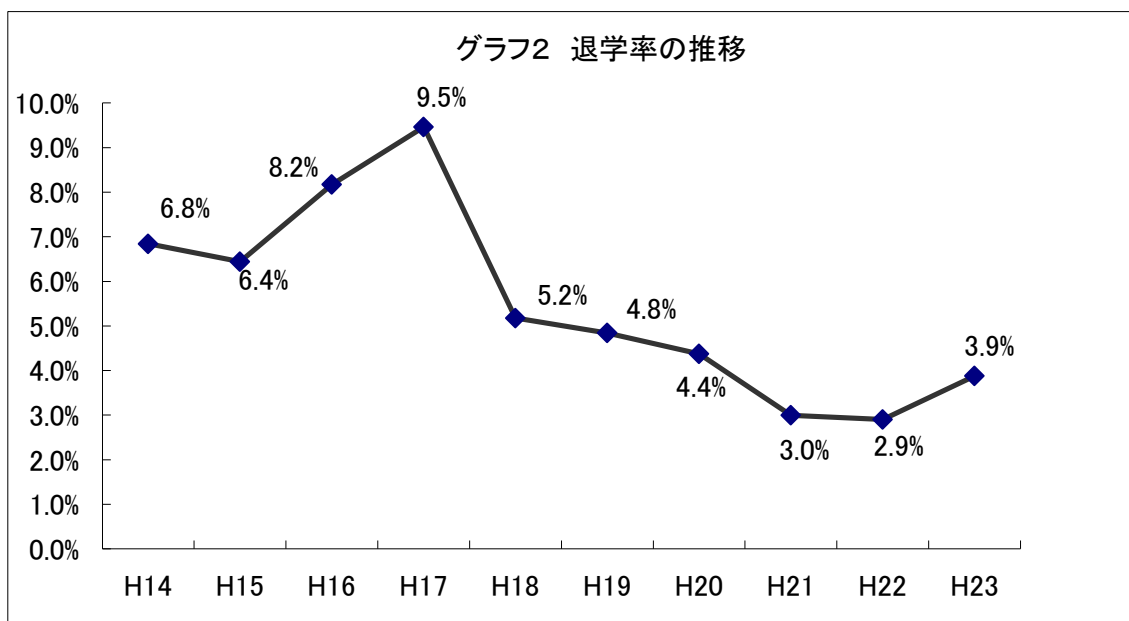
- ・1年生全員対象とした地域事業所での職場見学体験／職業に関わる知識やスキル／自己分析／労働法教育など

○多文化教育担当の設置

- ・外国につながるのある子どもの把握および日本語支援、保護者通訳配置など

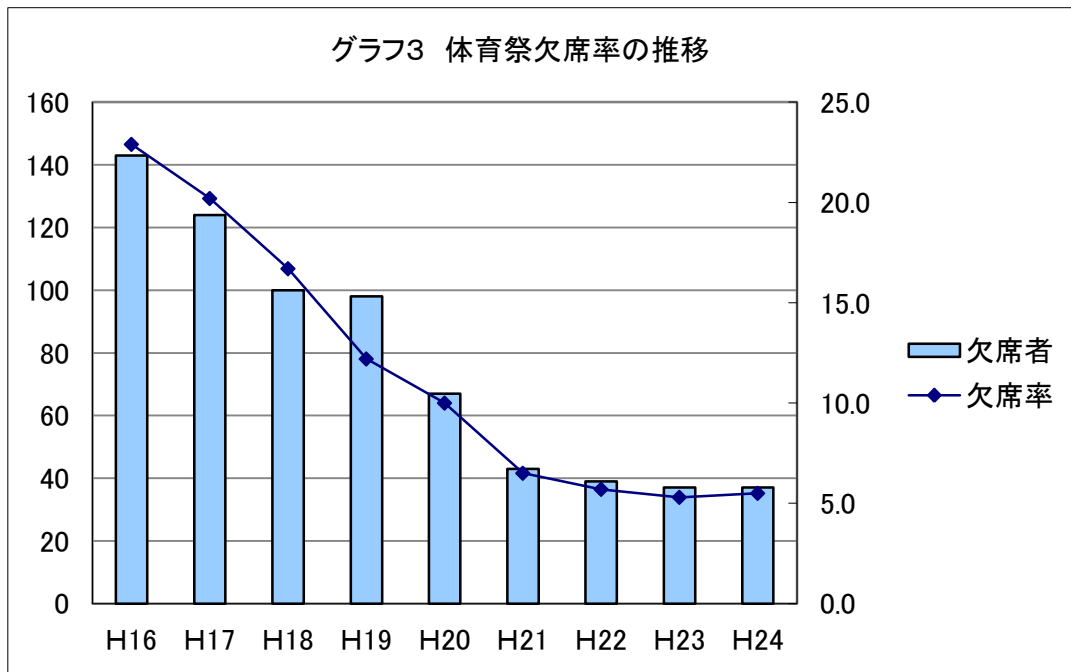
(3) 教育実践の成果

○中途退学率の低下



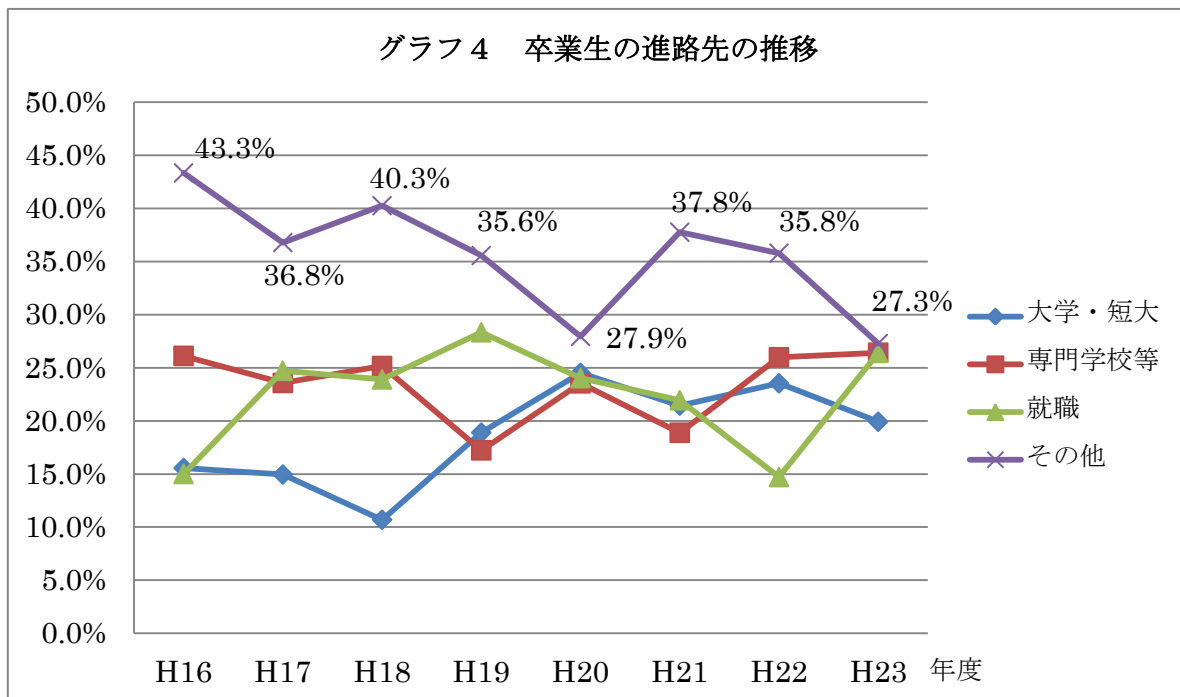
田奈高校作成

○学校行事参加率の向上



○H20年度までの進路未定者率の低下

- ・景気の動向に加え、学校全体の生徒指導やキャリア教育の成果もあり、リーマン・ショックの起こったH20年度までは、未定者（グラフ中「その他」）は減少傾向にあった。



田奈高校作成

2. キャリア支援センター

(1) 設置時期

平成 22 年度 キャリア支援センター試行 外部機関との連携の模索が始まる。

平成 23 年 4 月 キャリア支援センター設置要綱施行 本格実施へ。

(2) 設置の背景

表 1 進路状況の推移

		30 期生 (H21 年度 3 月卒業)			31 期生 (H22 年度 3 月卒業)			32 期生 (H23 年度 3 月卒業)		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
進学	大学	26	9	35	27	11	38	22	16	38
	短期大学	0	7	7	0	10	10	0	6	6
	専門学校	19	13	32	25	28	53	25	36	61
	職業技術校	4	1	5	0	0	0	3	0	3
	計	49	30	79	52	49	101	50	58	108
就職	公務員	1	0	1	1	0	1	0	0	0
	民間企業	25	17	42	11	18	29	26	35	61
	計	26	17	43	12	18	30	26	35	61
進学準備・就職準備等		22	52	74	21	52	73	11	51	62
総計		97	99	196	85	119	204	87	144	231

田奈高校作成

表 2 求人件数の変遷

年 度	H19	H20	H21	H22	H23
求人件数	880	720	410	322	306

- ・生活保護世帯をはじめとする厳しい経済状況の家庭が、多額の学費がかかる進学を選ぶことは困難。
(結果的には借金となる奨学金は高リスク)
- ・リーマン・ショック以後、求人が大きく減少。
- ・結果として、厳しい経済状況・雇用状況の中で、未定のまま卒業していく生徒が相当数にのぼる(とくに H21 年度以降)
- ・複雑な家庭状況から、卒業後の自立を望む生徒が多いが、経済的な面で実現が難しい。
- ・家庭や本人に困難がある場合、安定して高校に通うことそのものが難しく、卒業(中退防止)が目標になってしまう状況も一部にある。
- ・保護者自身が非正規雇用であったり、生活保護を受けている場合、就職活動への支援が得られにくいこともある。

一方で

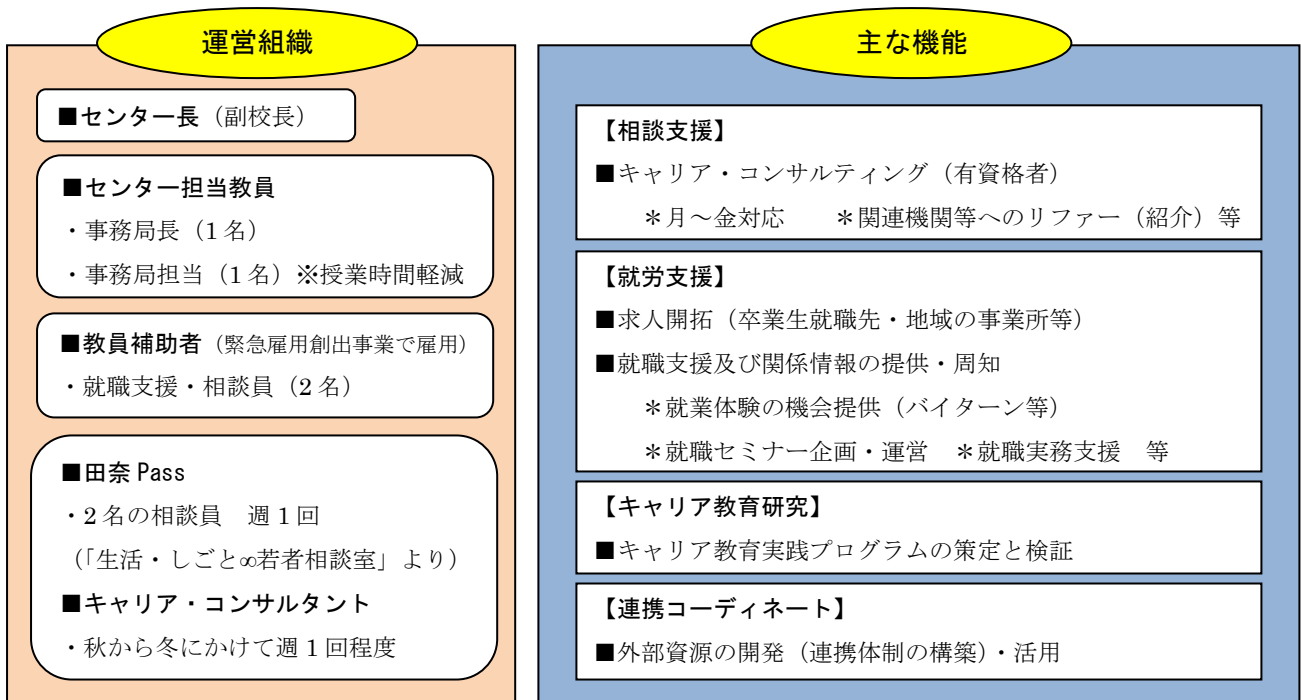
- ・在学中の支援の結果、中退後や卒業後も、相談に学校を訪れる卒業生や中退生が多くいる。
- ・彼らにとっては、公的支援機関の敷居が高いだろうと想定される。



卒業生・中退生の相談にも応じられるキャリア支援センターを校内につくり、外部資源を生かした支援ができないか…

※ こうした学校側の状況をサポステの側からみれば、困難に直面しても公的機関にはなかなか足を向けない十代の若者と、学校という場で会うことができる。また、学校で困難を抱える若者の多くは、厳しい経済状況にあることが多いため、サポステは、これまでより貧困の問題とも出会う機会が多くなるのではないかと考えられる。

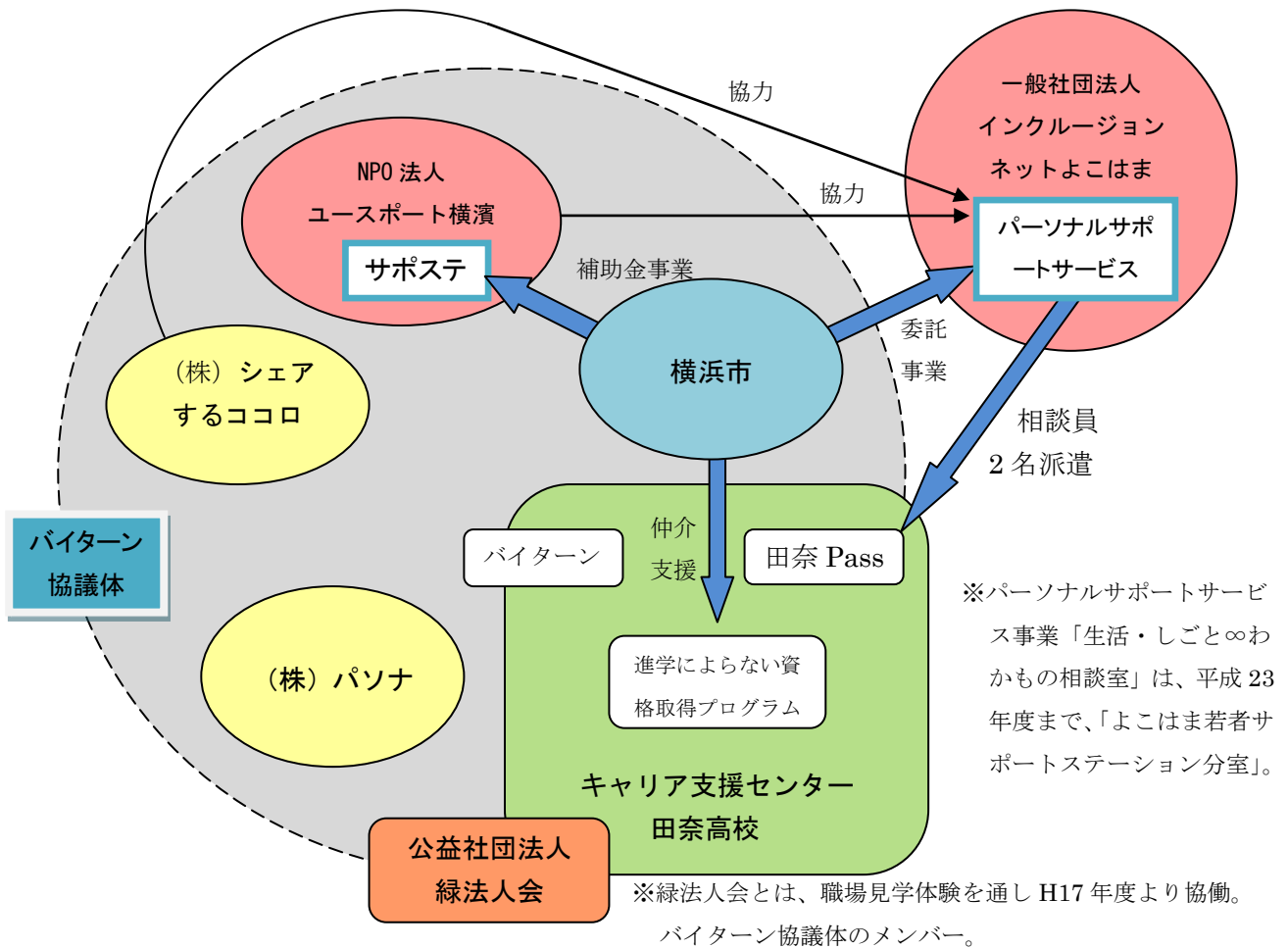
(3) キャリア支援センター組織概要 (図1)



用語 ■ 「キャリア教育」と「キャリア支援」

「キャリア教育」と「キャリア支援」は、連続性を持つ、異なる領域である。田奈高校では、以前から、キャリア教育に積極的に取り組んできた。しかし、若者の就労・雇用問題の背景には、非正規雇用の増大など雇用側の要因も大きく影響している。厳しい経済状況や家庭環境の影響によって若者が力を奪われている現状においては、キャリア教育だけで若者の社会的経済的自立を達成することはできない。「教育」だけでなく、福祉的な視点も含めた「支援」が必要であり、その面において、とくに学校外の資源が重要であると考える。

(4) 協力機関関係図 (図2)



※バイトーンは、平成23～24年度「神奈川県新しい公共の場づくりのためのモデル事業」に指定されている。

3. キャリア支援と外部連携の具体的展開

(1) 田奈PASS

- ・横浜パーソナルサポートサービス「生活・しごと∞わかもの相談室」より週1回、2名の相談員。
- ・図書室を拠点とした生徒との交流・相談活動（昼休み・放課後）を展開。

H24年度 のべ76人

- ・1学年の授業時間内にすべてのクラスでワークショップを実施。
- ・個別相談—授業時間内に、公欠扱いで実施

担任や教育相談などを介したケースや本人の希望によるケースなどがある。

H23年度 相談件数 のべ90人

H24年度（9月中旬まで） のべ80人

- ・田奈高校からのリファーで、パーソナルサポートサービスが活用されたケース

H24年度 7ケース のべ21人（面談、引越しや職場体験の同行など）

事例 1

3年男子。相談の中で、療育手帳を取得できる状況であることを把握。障害者枠での就労も視野に入れ、定期的な情報交換、児童相談所等外部の関係機関との連携によりカンファレンスを実施。後半は本人も参加し今後について検討。卒業後は進学することとしたが、引き続き「生活・しごと∞若者相談室」が伴走支援を行う。

事例 2

3年女子。家庭環境もあって、気持ちが不安定で通常の進路指導にのれず、中退の懸念もある。居場所が必要な生徒で、スクールカウンセラーの支援も受けている。進路の相談に乗りながら、卒業後も、家庭環境の調整も視野に入れた支援の継続が必要であると考えられる。

(2) 進学によらない資格取得支援

- ・横浜市の仲介と支援により、「保育士プログラム」と「介護職プログラム」を平成 23 年度より実施。
- ・「保育士プログラム」は、3年生の夏休み中に横浜市立保育園で5日間の研修を受け、適性や仕事内容について知り、本人および保育園の同意の下、卒業後、国家試験の受験資格となる「最低2年間2880時間以上」の条件を満たすよう、アルバイト雇用してもらう制度。
平成 23 年度参加者は3名。平成 24 年 4 月より保育園で2名が雇用されている。
- ・「介護職プログラム」は、湘南医療福祉専門学校と「ケアハウスゆうあい」の協力により、3年生の夏休み中に数日間の専門学校の研修を受け、夏休み明けから、土日などにアルバイトとして「ケアハウスゆうあい」で働く。
平成 23 年度は夏休みの研修に4名が参加。1名は腰痛、1名は一般就職に切り替え、2名が4月より「ケアハウスゆうあい」の正規採用。
- ・このプログラムに参加している生徒については、田奈 Pass が、必要に応じてカウンセリングを行い、支援している。

(3) 有給職業体験「バイターン」

- ・有給職業体験「インターンシップ×アルバイト」
- ・平成 23 年度～24 年度「神奈川県新しい公共の場づくりのためのモデル事業」
- ・実施主体は「バイターン協議体」
一田奈高校、横浜市、NPO 法人ユースポート横浜、(株)シェアするココロ、(株)パソナ
- ・アルバイト面接に合格できない生徒が、見守りを受けつつ、働く現場で経験を積むことができる。
- ・アルバイトに従事せざるをえない経済状況の生徒が、様々な職種を経験できる。
- ・現在、二十数社の登録があり、生徒・卒業生7名が参加（H24年9月現在）。他にエントリーした生徒数名がおり、カウンセリングを実施。
ビル清掃、ハム製造、文具店、自動車整備工場、コンビニエンスストア 等

事例 3

2年男子。家庭の経済状況が厳しく、アルバイトに従事するよう保護者から促されていた。しかし、コミュニケーションに課題を抱えており、自分ではアルバイトへの応募にトライできないでいた。バイターンのしくみに乗ることで、夏休みから、3日間の研修を経て、ビル清掃の会社で有給職業体験に入った。チームで動く難しさなど直面しつつも、仕事の現場で指導を受け、現在も継続して働いている。

(4) 求職者支援制度へのリファー

- ・ハローワークの求職者支援制度につなげるための情報提供、登録同行支援。
- ・事業者である岩崎学園のプログラム開発への協力。
- ・求職者支援訓練中のフォロー。

*今年度の実績をみると、実践コースと学卒未就職者対象の礎訓練コースでは効果に差があった。実践コースでは、目標が見えやすく、異年齢集団で学ぶ中で最年少者として包摂され、安心して学ぶことができていたが、基礎訓練コースでは、目標が見えにくく、高校の延長線上の同年齢集団に息苦しさがあったようである。

*高卒者のニーズにかなった実践的なコース設定と、カウンセリングマインドをもった指導者の養成がなされれば、求職者支援制度が持つ可能性は大きいと思われる。

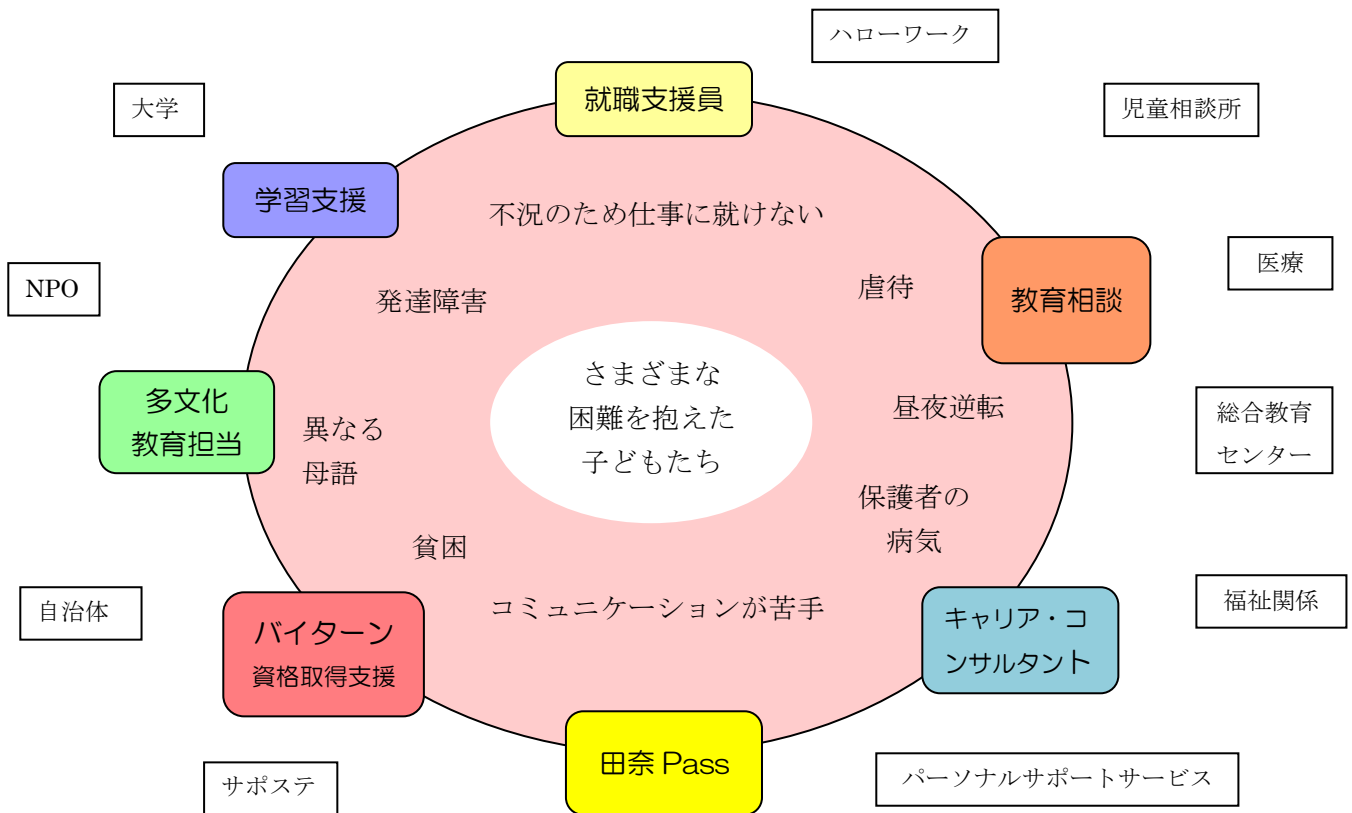
(5) 就職支援員の雇用

- ・ハローワーク経験があり、若者とつき合うスキルを有した専門の支援員が、常時、キャリア支援センターを開室させ、生徒に対応している効果は極めて大きい。現在の支援員は、2名とも「技能士2級の資格を有しており、生徒のカウンセリングに大きな力を発揮している。
- ・「就職」は、30名（H22年度）から61名（H23年度）に倍増。
- ・緊急雇用創出事業による雇用であるため、継続見通しが立たないことに加え、最長1年では、ノウハウやネットワークの蓄積がなされないという課題がある。

(6) キャリア・コンサルタント

- ・学校が独自に配置する資格を有するキャリア・コンサルタントによる相談。
- ・秋から冬にかけて週1回程度。
- ・授業時間の相談については、公欠対応。
- ・特に就職試験で不合格となった者のケアと、就職活動への意欲の維持などに大きな役割。
- ・田奈 Pass と比べると、相談内容は在学中に学校内で完結する（福祉制度の活用や卒業後の対応までは視野に入れなくてよい）ケースが多い。
- ・学校独自での費用の対応が難しく、毎年度の確保が困難。

(7) 生徒を支える重層的な支援のしくみ



- 困難には、さまざまな質とレベルがある。就職困難なすべての子どもたちに、サポステが想定する支援が必要なわけではない。本人の課題が主因ではなく、不況や非正規雇用の増大など厳しい雇用環境のために、就職が困難になっている層が確実に存在している。こうした層については、進路室の常時開設と就職支援員の常駐による手厚い就労支援が、最も効果があると考えられる。(今回のサポステの検討とは別に、今後、学校がこうした常駐の就職支援員を継続して雇用できるような体制づくりが望まれる)。
- サポステをはじめとする外部機関に期待されるのは、生活困窮など家庭環境に課題のあるケース、コミュニケーション上の課題を有するケースなど、より困難度が高いケースである。それらのケースについては、相談対応するだけでなく、さまざまな福祉野制度を活用したり、中間的就労、職業訓練につなげたりする、世帯への介入を行うなど、具体的な支援の展開が求められる。
- この図で明らかなように、教育相談をはじめ、学校独自の支援も存在している。困難を抱えた子どもたちは、すでに校内で様々な形で支援を受けていることが少なくない。外部スタッフが支援を行っていくためには、これらの既存の校内支援との連携も重要である。
- 外部と連携した支援を円滑に進めるためには、様々な子どもたちの状況を見極め、誰をどの支援につないでいくかを判断するとともに、外部機関や外部スタッフと校内の支援の連携をはかる役割が大変重要になってくる。田奈高校では、この部分を、キャリア支援センター担当教員が担っている。

4. 学校とサポステの連携を考えるにあたって

(1) 就労支援の周囲に広がる総合的な相談・支援

田奈高校の事例から

- ・ 実際の相談は、進路支援・就労支援に留まらない広がりを持っている。
- ・ 進路実現に困難を抱える生徒の背景には、生活困窮、保護者の病気、複雑な家族関係、発達障害などのさまざまな要素が横たわっており、それらの悩みや困難に耳を傾けつつ、必要な支援を行っていく必要がある。
 - *生活保護のワーカー、児童相談所のケースワーカー、ハローワークの専門援助部門など、連携すべき領域も広い。
 - *高卒用の障害枠がない中で、障害を持った生徒の就職は極めて困難な状況にある。

- ・ それぞれの抱える困難と自らの将来の間で揺れ動く生徒や状況に応じて、地域の様々な資源を活用したり、開拓したりしながら、支援していく必要がある。
- ・ 就労支援だけでなく、福祉、医療などの支援、世帯への介入が合わせて必要な場合が少なくないことを認識しておく必要がある。

(2) 学校に入る外部人材に求められる資質

田奈高校の事例から

- ・ 現在の田奈 Pass 相談員は、2名とも、サポステの総括コーディネーターの経験を持ち、地域の資源の活用や連携の仕方について十分なキャリアを有している。また、パーソナルサポートサービスというワンストップの支援機関からの相談員でもある。このため、それぞれのケースについて、相談の現場である程度の支援方針を立て、教員と相談・協働することが可能になっている。

- ・ 学校に入るスタッフは、地域の資源について、活用可能な十分な情報やネットワークを持っている必要がある。
- ・ 学校に入るスタッフには、十分な支援経験をもとに、個々のケースに応じた適切な支援計画を、教員と協働して立案できる力量が必要である。
- ・ こうした点から、人材の育成が極めて重要だと考えられる。

(3) 外部人材を受け入れる学校側の環境整備

田奈高校の事例から

- ・ オープンな図書室を通して、相談員と生徒が交流でき、支援しやすい環境がある。
- ・ 外部から入るスタッフと、進路指導や教育相談に関わる教員が緊密に連携できており、外部スタッフが校内で動きやすい。
- ・ コーディネートにかかる時間と手間に配慮し、教員集団と外部スタッフ・資源をつなぐキャリア支援センター担当教員の授業持ち時間数を、事務局長を中心に大きく減じている。



- ・神奈川県では定員内不合格は認められておらず、また、田奈高校はクリエイティブスクールとして、「かながわの支援教育」を実践しようとしてきた学校である。このため、田奈高校は、高校に根強い「適格者主義」が比較的弱い。生徒一人一人を支援しようとする学校組織文化が土壌となっているため、支援のために外部の資源や人を活かすことに抵抗感が少ない。
- ・職場見学体験などのキャリア教育を通して、すでに地域の法人会・事業所と協働関係があり、外部機関との協働による体験的なプログラムが持つ効果が認識されていた。
- ・在学中に外部スタッフと関係ができ、卒業・中退後に外部機関につながるケースもある。

- ・高等学校において、適格者主義を超え、生徒一人一人を支援しようとする文化を育てていく必要がある。
- ・担任・教育相談担当・生徒指導担当など生徒の指導に関わる教員と、外部スタッフが必要に応じて情報共有し、協働できる体制を作る必要がある。
- ・外部スタッフが校内で生徒と接することができる居場所をつくり、生徒や教員と様々な形で交流できるようにすることで、上記の協働を促進することができる。
- ・在学中に外部の相談員と顔の見える関係をつくることで、卒業・中退後に支援機関につなげることができる。
- ・体験的なキャリア教育などを通して、外部との連携・協働の経験を積み重ね、多様な体験が生徒・若者にもたらす効果を学校として認識する。
- ・外部機関と校内の支援をつなぐコーディネート力のある教員を育てていく必要がある。
- ・コーディネートを担当する教員の授業時間減など、連携や協働にかかる時間と手間を前提とした学校運営が必要である。

用語■「適格者主義」

高等学校は、小中学校と異なり義務教育ではなく、また、入学者選抜を行っている教育機関である。こうしたことから、現在でも、高等学校で学ぶ者は適格性を有していなければならないという発想は、教員間に根強い。現在でも、多くの都道府県の公立高校入試で「定員内不合格」が出されているし、生活指導においてもゼロトレランスの指導方針を取る学校が少なくない。入学後も適格性に疑問が出れば、排除の論理が働きやすいといえる。こうした高等学校の文化を変えていかなければ、包摂の発想に立つ「若者支援」との共存は難しいのではないだろうか。

関連資料

労働政策研究・研修機構，2011，「労働政策フォーラム『若者問題への接近—若者政策のフォローアップと新たな展開』」，<http://www.jil.go.jp/kokunai/blt/backnumber/2011/10/002-021.pdf>

『ビジネス・レーバー・トレンド 2011 年 10 月号』所収

吉田美穂，2010，「神奈川県立田奈高等学校の取組」

<http://www8.cao.go.jp/youth/suisin/shien/pdf/kanagawa.pdf>

内閣府「子ども・若者支援地域協議会運営方策に関する検討会議」報告書『社会生活を円滑に営む上で困難を有する子ども・若者への総合的な支援を社会全体で重層的に実施するために』事例紹介編所収

吉田美穂，2011，「労働法教育—若者の社会への移行支援—」，『現代の理論第 26 号』所収，明石書店

吉田美穂，2012，「外部資源を生かした高校の『キャリア支援センターの試み』」，『教育 2012 年 3 月号』所収，国土社

神奈川県立田奈高等学校，2011，『平成 22 年度（第 3 年次）文部科学省指定研究開発学校 研究開発実施報告書「高等学校において一人ひとりの教育的ニーズに対応した指導のあり方に関する研究～」』